令和7年度 新潟県学校栄養士協議会 全体研修会報告

令和7年6月16日（於：新潟県自治会館）

開会の挨拶

新潟県教育委員会 教育長 太田勇二 様
代読 新潟県教育庁保健体育課 課長 志田哲也 様

栄養教諭等の職務内容は、新潟県総合計画で取り組むべき内容に大きく貢献している。児童生徒の食に携わる仕事に誇りとやりがいを持ち、学校給食の充実に努めていただきたい。食育月間に、能生学校給食センターと磯部小学校を訪問した。給食施設や食育指導の参観を通して、学校給食と食育の重要性を改めて認識した。今後も、安全安心で地域の魅力あふれる給食の提供、地域への愛着が高められるような食育の取組をお願いしたい。

講義 「今求められている食育の進め方」

新潟県教育庁保健体育課学校給食係 副参事 指導主事 渡部忠夫 様

第4次食育推進計画が策定された。栄養教諭等は、食に関する指導の全体計画の作成、給食指導及び各教科や給食の時間における食に関する指導への参画だけでなく、食の健康課題を有する児童生徒への個別的な相談指導、保護者からの相談対応なども求められている。栄養教諭等が一人で担うのではなく、学校全体で組織的、計画的に食育を推進していただきたい。

発表1 「遊びながら楽しく食育 特別支援学校での実践より」

関川村立関川小学校 栄養教諭 中川拓哉

食育授業の時に、みんなで楽しいことができるように「遊び」を取り入れている。「3つの仲間の食べ物カード」を使ってかるたや神経衰弱をしたり、カードを主食・主菜・副菜に分けることで、献立を考える活動をしたりしている。今後も、児童生徒が休み時間に遊べる食育のゲームを考え、会員同士でアイデアを共有していきたい。

発表2 「燕市における食物アレルギー対応について～ヒヤリハット事例より～」

燕市立粟生津小学校 栄養教諭 石井礼香

「思い込みをなくす」ということが最大の安全対策である。食物アレルギー対応事故を防ぐには、配合表の確認、通常のコンテナの配置を変えない、声に出しながら指差呼称をすることなどについて、複数の職員で確認し合う必要がある。人間の手でやれることには限界がある。調理作業に無理がない献立の作成、複数の立場や人数での確認、明確な役割分担等が重要である。児童生徒の安全を守ると同時に、栄養教諭等自身のことも守っていかなければならない。

説明 「健康立県にいがたの取組について～はじめよう、健康time～」

新潟県福祉保健部健康づくり支援課 主任 木村茜 様

新潟県では健康立県の実現を目指し、健康づくり県民運動「ヘルスプロモーションプロジェクト」を行っている。県民一人一人が健康づくりの大切さを認識し、自発的な行動につなげていけるよう、様々な分野の関係機関が連携した取組のもと、健康づくりを推進している。リーフレットを活用しながら、望ましい食事の取り方等について、保護者に啓発していただきたい。

講演 「咀嚼・嚥下機能からみた食教育」

新潟大学大学院医歯学総合研究科 包括歯科補綴学分野 教授 堀一浩 様

年齢にかかわらず、幼児、小・中学生、高齢者など、咀嚼の習慣には個人差が見られ、「よくかんでいる人」と「そうでない人」が見受けられる。子どもの頃にかむ回数や力、ほおぼる量などの自身の咀嚼状況について知り、よりよい咀嚼について自己決定、行動変容する機会を経ることで望ましい咀嚼習慣を身に付けることができる。大人になってからもそれを継続することで、よりよい生活習慣の維持や窒息事故防止、楽しく食事をするなどにつながる。